

## 〈全校研究主題〉

## 生き生きと学び続ける生徒の育成

～主体的・対話的に学びながら、一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

## 〈理科の生徒の実態〉

- 学習した内容を身近な事象に照らし合わせて考えようとする生徒の姿が増えた。
- 学んだ知識を活用して結果を予測し、目的意識をもって実験に取り組む姿が増えた。
- 仲間と議論することで、自らの考えの妥当性を再検討できるようになってきた。
- 主体的に事実を見つめ、比較したり、因果関係を考えたりする意識に弱さが見られる。
- 自分の考えに自信やこだわりをもちきれず、他者の意見に安易に同意して、考えを広げ深められない生徒もいる。

## 〈授業で生み出したい姿〉

## 〈主体的・対話的な姿〉

- \*自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験する姿。
- \*知識及び技能を着実に身に付け、活用しながら探究する姿。
- \*仮説や考察を考え（自分との対話）、仲間と交流する（仲間との対話）中で、自分の考えをより妥当なものにする姿。

## 〈課題解決できる姿（深い学び）〉

- \*理科の見方・考え方を働かせながら結果を分析、解釈して、課題解決する姿。
- \*学んだ知識及び技能を、日常生活の中の事象に適用して考え、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、自然についての理解を深め、探究心をもち続ける姿。

## 〈理科研究主題〉

## 自然の事物・現象から問題を見だし、理科の見方・考え方を働かせて、科学的に探究できる生徒の育成

## 〈研究主題設定の理由〉

昨年度の研究では、単元計画の中で、「習得」「活用」「習熟」を位置付けたことや、単元を貫く課題を設定したことにより、前時までに学習した知識及び技能、見方・考え方を働かせて、自然の事物・現象をとらえることができた。また、目的意識や見通しをもてる課題設定や主体的・対話的な姿を生み出す教材や授業形態を工夫したことで、科学的根拠をもとに話し合い、自己の変容を自覚できる生徒の姿が生まれた。

一方で、主体的に事実を見つめ、比較したり、因果関係を考えたりする意識に弱さが見られた。また、自分の考えに自信やこだわりをもちきれないため、他者の意見に安易に同意して、考えを広げ深めることが不十分である場面が見られた。

理科部が考える「授業で生み出したい姿」は、主体的・対話的な学びを通して、自然の事物・現象の中に問題を見だし、理科の見方・考え方を働かせながら探究し、結果を分析、解釈して、課題解決する姿である。そこで、本年度は、上記のような研究主題とした。

## 〈研究内容1〉

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

- ・概念の系統をもとに、単元で働かせる見方・考え方を明確にして貫く課題を設定し、科学的に探究できる単元構成を仕組む。
- ・身に付けた知識及び技能、思考力、判断力、表現力等が実生活で活用したり実感できたりする、単元出口の授業を工夫する。

## 〈研究内容2〉

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

- ①一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫
  - ・単位時間の終末の姿を明確にし、見通しをもてる導入や課題設定を工夫する。
  - ・結果を分析、解釈するための、ホワイトボードの活用や構造的な板書を工夫する。
- ②学びの状況を実感できる授業終末の工夫
  - ・学んだ用語を用いながら、本時の課題について言葉でまとめる活動を通して、定着状況の見届けを行うとともに、生徒自身にも1時間の学びの伸びを実感できるようにする。

研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導、PDCA サイクルを意図した指導）

- ①互いに認め、高め合える学級集団の育成 ②生徒の自主的な活動の推進 ③基礎・基本の定着